



蝕の墮ち手Ⅱ

R-18

Adult only

前回のあらすじ

御崎市を襲った災禍は、大きな被害をもたらしながら辛くも退けられた。事態の終息直後、逃亡する徒の気配を察知したシャナは単身これを追う。

だがそれは罠だった。

発動すら感知できない自在式によって、シャナは徒の連れていたトーチの少女の記憶を転写される。記憶に翻弄された隙を付きフレイムヘイズの能力を封じられ、ついには徒の体内に取り込まれてしまう。

記憶の中の少女のように、蠢く触手がシャナを弄ぶ。身体を這う触手の感触に嫌悪感を抱きながらも、徒の意図が読めず困惑するシャナ。その脳裏にかつての問いと、少女の言葉が過ぎる。

少女と徒が行っていたのは、『子どもの作り方』……

ようやく自分がされていることの意味を悟るも、抵抗空しく奪われた純潔の奥底で白濁の飛沫が弾ける。

だが行為はそこで終わりではなかった。

人の方法でフレイムヘイズと徒の間に子は産まれない。なのにどうして？

疑問に答える者はいない。少女はまだ自身に向けられた欲望の意味を知らない。

墮落の饗宴はまだ始まったばかり





ああ

く...

あれから――



行為はずっと
続いている

トーチも受けていた
この行為――



徒に捕まってから
一日や二日では
済まない

トーチの記憶は
もう臙げだけど

場所を移しながら
ずっと ずっと――

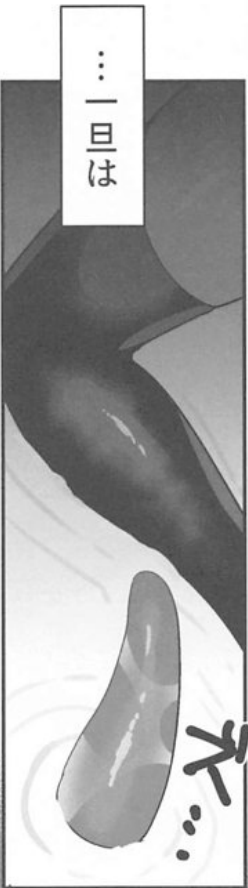


《これ》が来ると
頭が痺れて…
力が入らなくなって…



この…感覚が続くと
《これ》が来る





…一旦は



徒も《これ》が目的
なのか触手の動きも
一旦は終わる



サッ

グ

ちん。



それと
この体液



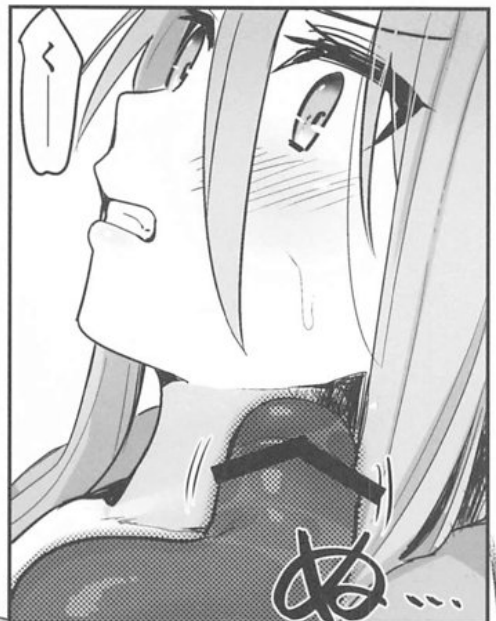
ぎゅ

グ

グ

熱病の毒？
触れた場所が
熱くて…

触覚がどんどん
過敏になってる



解毒はできるけど
力を割きすぎると
《鎖》に回す分が減る







あっ
ビュビュ

ビュビュ

ビュ

ぎゅ

ビュ

そん

ガ

あっ?!

ガ
ウ
ウ
ウ

ア
ッ

すっ
びん

ずる

あっ

ぬる

ああっ?!

ずる

ずる



ひびく

そんな
ところ
で

バタ

あつ

やだっ

ガ

びび

ゆ

あ

びび

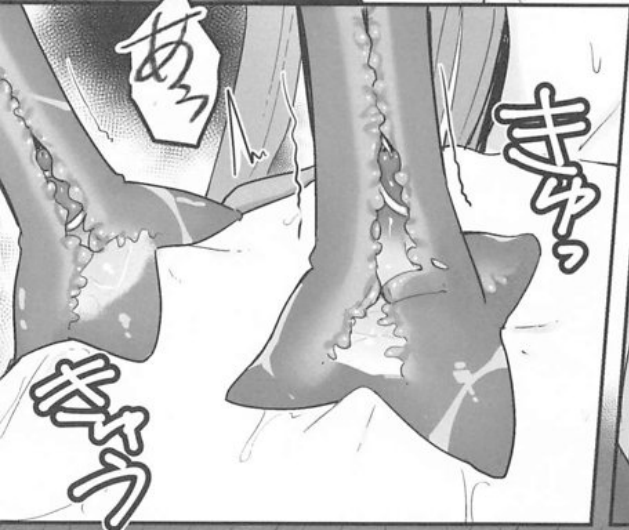
びび

びび



こんな…







あああああ

しゅん
しゅん

しゅん
しゅん

しゅん
しゅん

おんおん

しゅん

しゅん

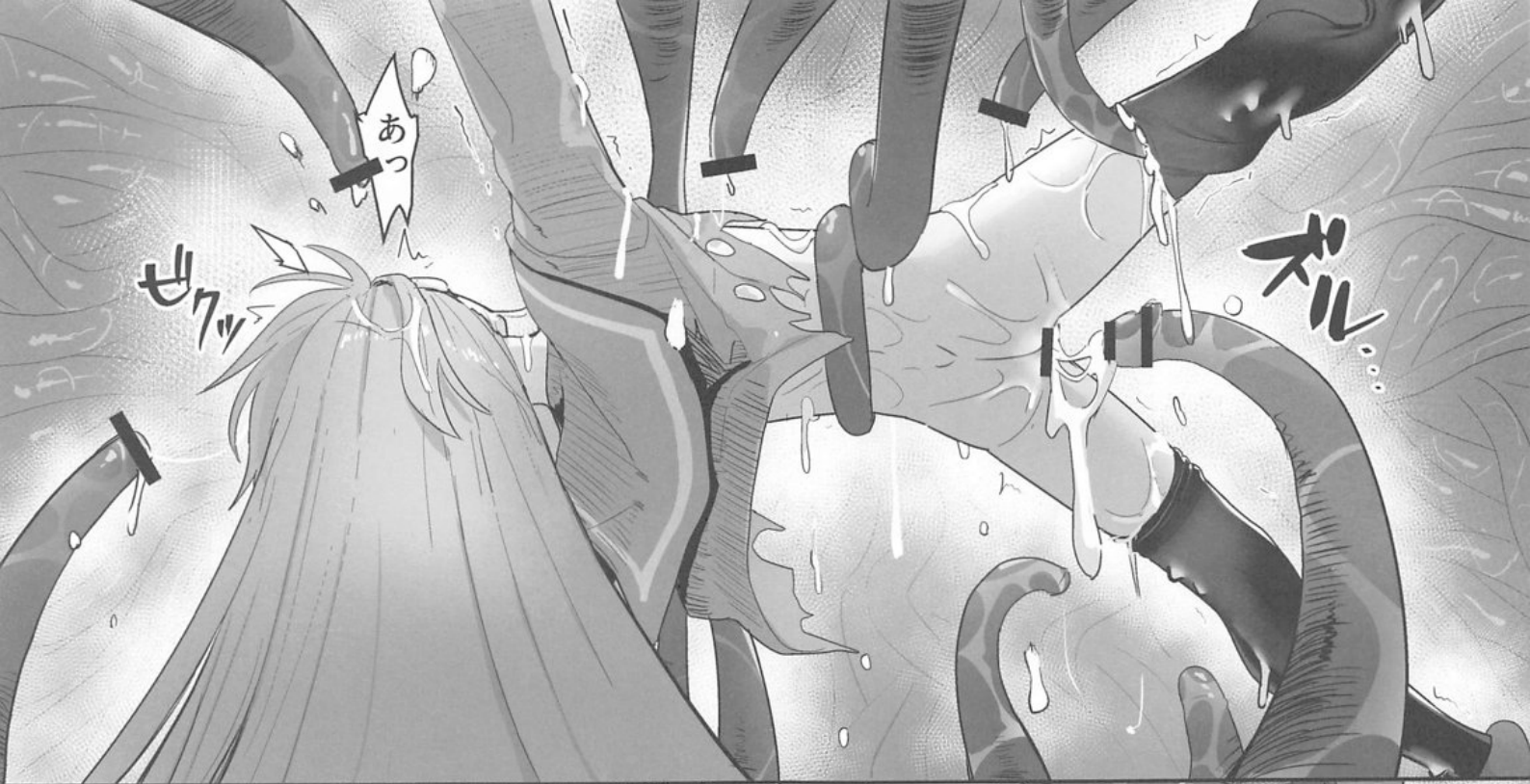
しゅん

しゅん

しゅん

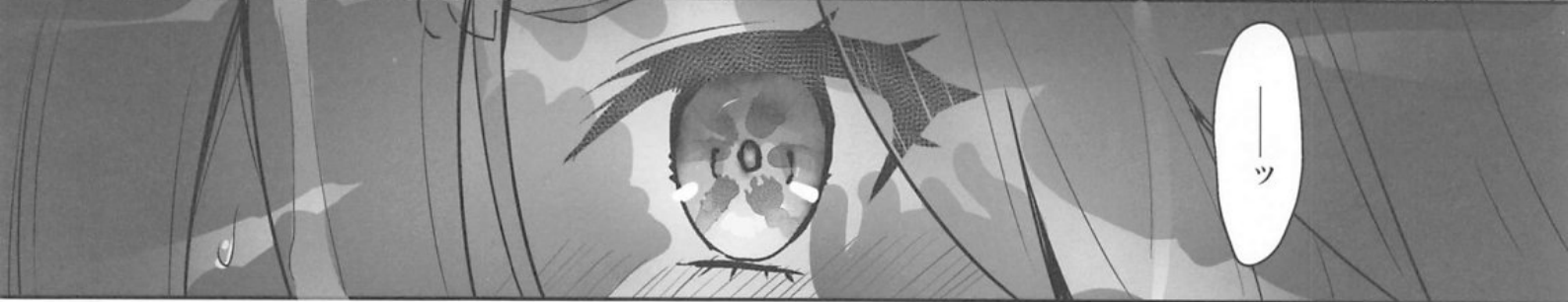
しゅん

しゅん





あ……



——ッ



さやい

あッ



わかった——

かっ……

こいつは
教えてるんだ

お...なか
くるしっ

《あれ》が来たら
止まるのも

私の反応を
見ようとするのも

これがどうい
うもので――

めくれちゃ――

私に教えてる



もう少しっ
もう少しで



どんなふうにも



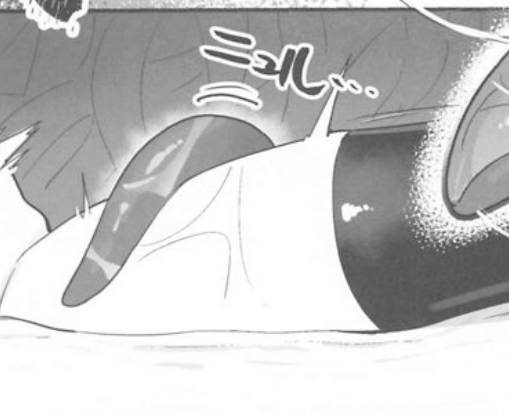
どんな形で、



どうしたら——

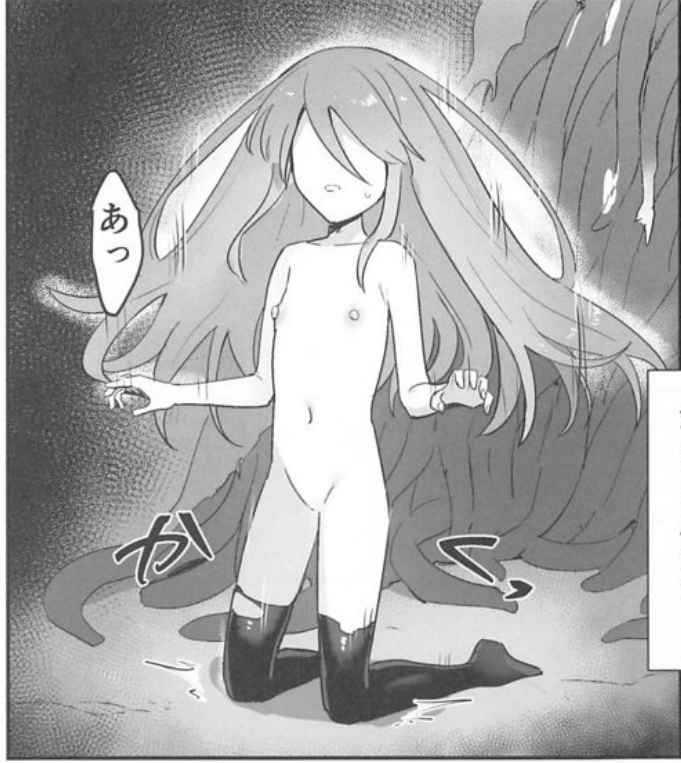
ききごころ
そうなのか











あっ

か

く

仲間がいる
かもしれない…



移動…
しないと

ザッ
ザッ



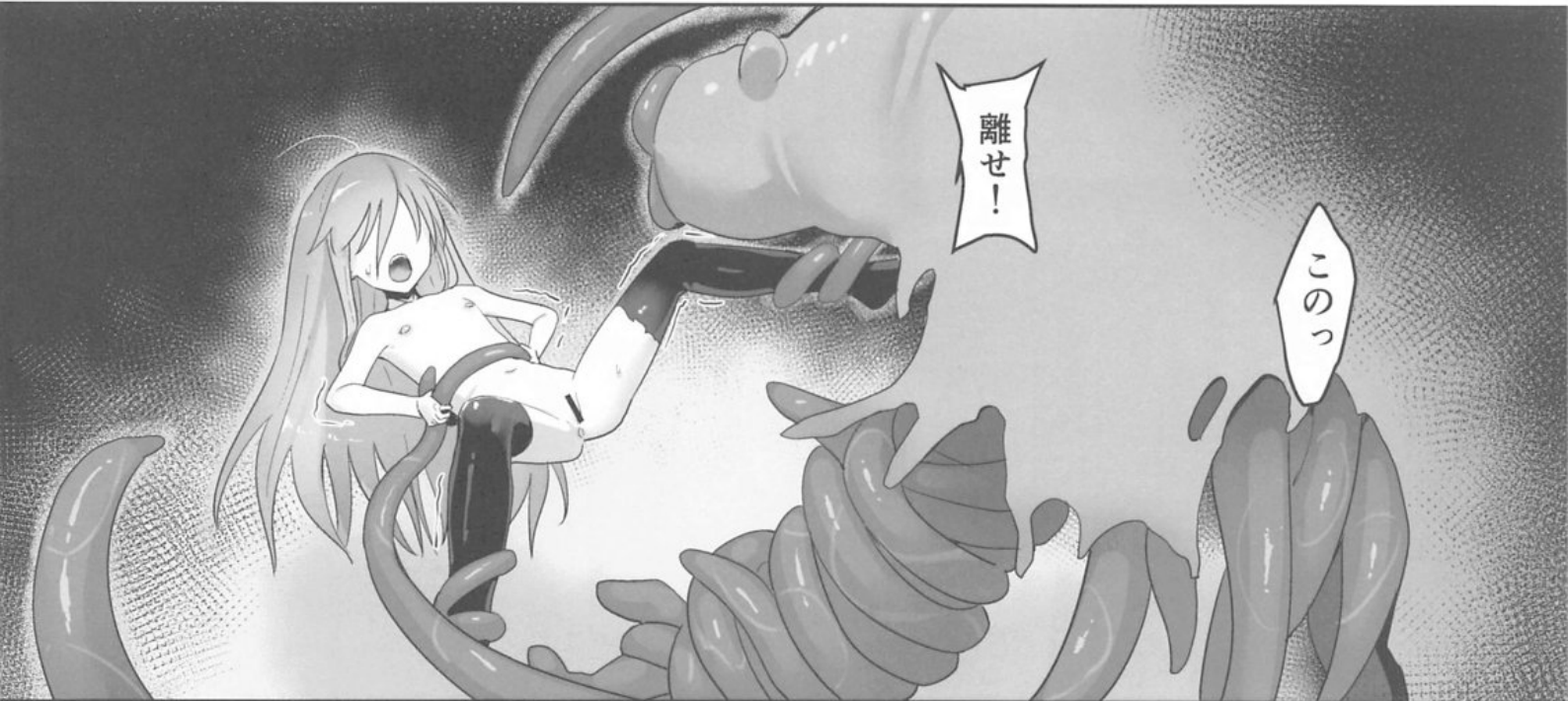
脚が…

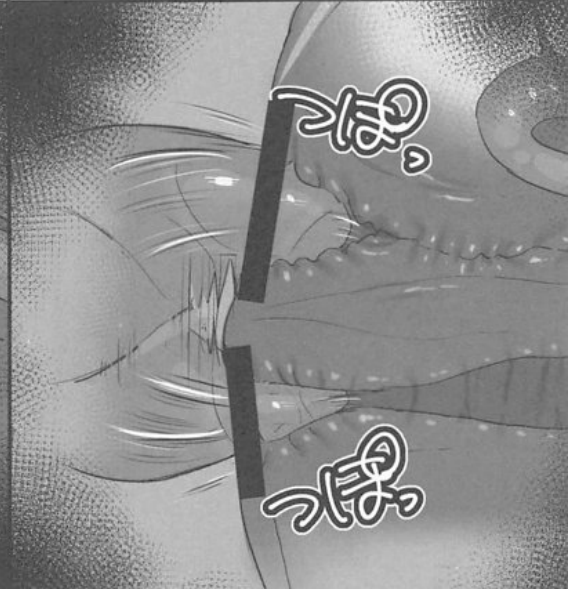
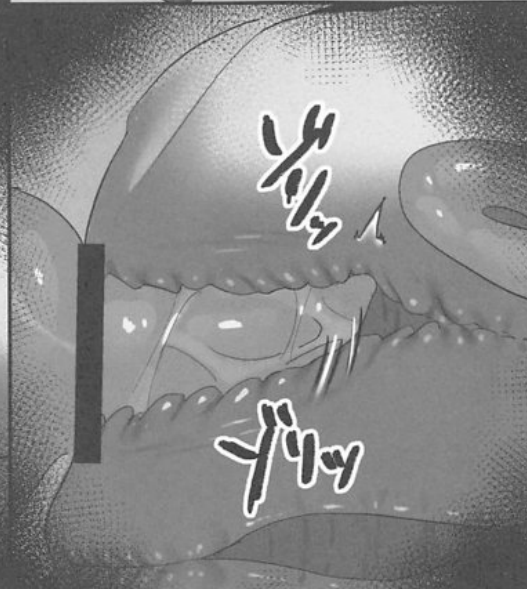


っ

ザッザッ









んろお

クワッ

〜っく



おまえっ

一体どういう
つもりで――

クワッ

クワッ



やだっ

だめ――



あ…



クワッ

クワッ



！
だめっ
今動か

あれが本当に
全部入って…



く…
くるし…

かっ

あっ



おおお!!

おおお!!



おおお!!

おおお!!

おおお!!





自在法?!

オ オ オ オ



そんな
次々に——っ



こいつ
崩れかけの身体で

しゃう

しゃう



オ

オ

オ

オ

オ

きもちいい！

ご主人さま
もつと！

もつと！

精子ちようだい
びゅっびゅっ♡

おつき
好き♡

く！

おっぱい
いじつて！

ゴコンゴコン♡

きもちいい！

すほすほ

すき！

これ大好き♡

私のこと
めちやくちやにして！

くたくたの
うだい♡

激しい！
きもちいい！

つちやう！

おくちっぱい
犯して♡

ぐちやぐちやにして！

おしりの深いとこ
までちようだあい！

きもちいい！

これきもちいいのお！

びゅっびゅっ♡

ああああ

指一本動かさないまま
めちやくちやにして♡

ぜらんぶして♡

キヌもして

もつともつと！

精液♡

ご主人さまのこと
もつと好きにさせて！

きもちいい！

きもちいい！

あはははは

ああああ



びびび

あ...いや

も...
やめ...



あああああ

あああああ



い...いまで
い...いまで続くの

終わらないの？
ずっと

あああああ

ドクッ

あああああ

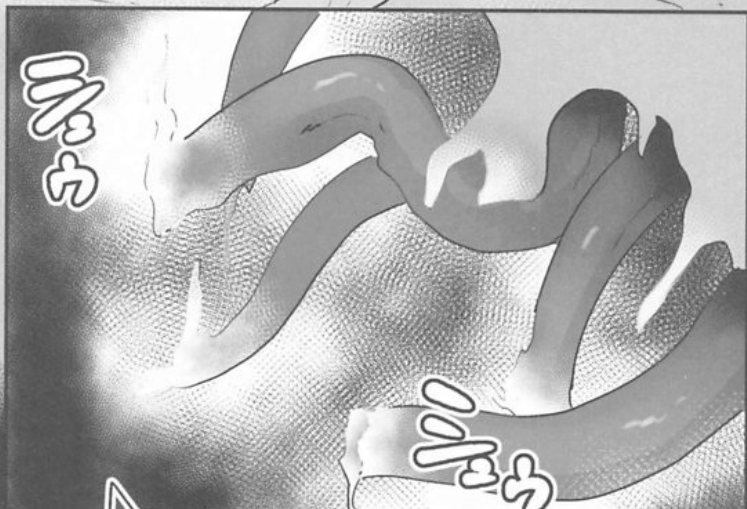
ドクッ

あああああ



こいつ
フレイムヘイズ
私の

他の徒
《王》の
存在の力を
喰って—?!



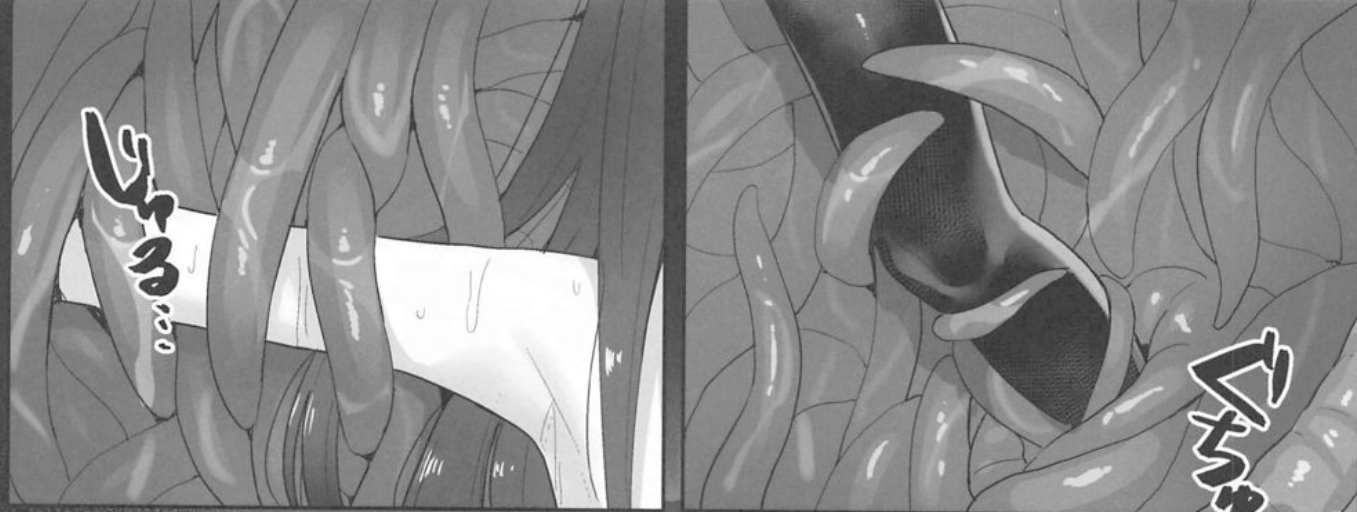
喰う速度は
大したことない

でも今の私の
『力』の量だと—









To be continued...

設定メモ という名の 予方線

"コキュートス"の鎖

アラストールの意思を表出させるペンダント型の神器"コキュートス"、の鎖。

神器の一部の強度がどれほどかは判断が難しいが、本作ではあっさり千切れておきながらある程度の存在の力を蓄積できる耐久性があるのは不自然なため、恐らくシャナの首を痛めないようアラストールが自切した気がする。破断した形も妙だし。

"存在の力"を体外に留めおくことは原作ではラミーが行っているが、その取扱いについてはラミーの手を離れることを危惧されていること、他に予備として貯蓄する者がいないことから、少なくない手間がかかると考えられる。シャナは自在法が苦手であり、今回は鎖に蓄積させるイメージでなんとかこなすことができたが、炸裂後は砕けたか失したかしてしまったため同程度の強度があるものを手に入れられない限り同じ方法での反撃は難しい。

なお鎖をソラトに切断されるのはアニメ版と漫画版だけの展開であり、原作では器用に避けてシャナの服だけが切られている。

無名の徒

目や鼻はなく口だけがついたしだれる首と、胴に複数の口を持ち、体内には大量の触手が蠢く。

何故か『達意の言』が無効化されてしまい、会話を行うことができない。何者かの関与が伺える。

気配や一挙一動から非常に弱いとわかる徒。

一方で気配の完全な消失・自在式を発動寸前まで隠蔽する・他者をトーチに割り込ませ、その記憶や『絆』を強制的に想起させる・フレイムヘイズの能力を限定的にする、などの高度な自在法を操る。それ以外の自在法の運用練度から《弱く見せかけている自在法に精通した徒》でないことは明らかであり、自在式を記したなんらかの道具を使っていると考えられ、やはりそれらを用意した他の存在の影がちらつく。能力は『触れている相手の存在の力を喰う』。一度に奪える量はわずかであり、接しなければならない都合上この徒自身の力量から戦闘で活かせる場面はほとんどない。また存在の力が欲しければ『普通に』

人間を喰らえばよく、効率も良い。類似した固有能力を持つ者に"踉蹌の梢"がいるが、あちらが奪った炎の色=元の性質を保持したり、統御限界を越えて扱うことができる一方、こちらは良くも悪くも従来の『食事』と同じであり、自身の存在の力そのものに変えてしまう。あとこの設定を考えた頃にはまだ"踉蹌の梢"が居なかった

媚毒の白濁液は固有の能力ではない以上、なんらかの自在法・宝具で生み出しているものであると予想される。

触手の形状は変えることもできる。表皮を繋ぎ合わせ

『ガワ』を作り肉を充填する、というような形であり、

"千変"のように材質から容積まで自在に変化できる性質のものではない。とはいえ徒の姿かたちは人間態も含め

『本性に見合った』ものであり、あえて形を変えようとすると相応の存在の力の消費を必要とする。制限があるとはいえ軽々と自らの形を作り変えるこの徒

のありようはやや不自然であることは否めない。

自身の物ではない媚毒が体液のように身体中を巡っている点からも何らかの秘密をもつ可能性がある。



あとがき

こんにちは、有魚です。

3冊目の本になりました。

前作のお話は実は1.....13年前.....?! にひな形になる作品を投稿していました。未だにそのことを覚えていてコメントをくださる方もいっちゃり、嬉しいやら（黒歴史過ぎて）恥ずかしいやらでしたが、今回ようやくその続きのお話をお届けすることができました。待っていただいた分には到底足りないのですが楽しんでいただけただしょうか？

私もじゅ.....13年分煮詰めに煮詰めてきた妄想の一部を形にできて少し息をつくことができました。炎髪が解けてしまう展開はずっと描きたかった！

シャナの話をししましょう（早口）。

戦闘者として英才教育を受け、服が斬られ胸が晒しものになっても一切気にも留めず反撃の算段をうつ理性的な彼女ですが（前作のはトーチの記憶を見せられた直後で裸を晒すことを目的なのがわかったからの反応ということでここはひとつ）、戦いが終われば思わず目をやった不埒者に峰を振る舞う一端の少女でもあります。おや？

情操教育を一切受けなかった彼女が、裸を見せるのは恥ずかしいということだけは知っている理由については原作で語られています。つまりそれすらも知らなかったシャナを見咎めて教えてくれた人物がいるのですが、そのやり方というのが口で説明するのではなく、人目も憚らず服を脱いだ彼女に気をつけをさせて凝視する、するとしばらくして『人目』を意識したシャナが恥ずかしさを自然と解する、というものでした。つまり彼女の羞恥心は天性の.....最も原始的な.....ピュアな情動なわけです。ありがとう知恵の実！ エウレーカ！ 私も彼女に色々な感情を去来させたい！ そういうわけで本作です。喋らない竿役にしたことを一生後悔していますが、彼女に解させていく筋道はとてかんがえがいがありました。

原作を読み返してみるとこの一件に限らず、シャナの物事の受け止め方は情動的・直観的です。「悲しい」「こんな気持ちになるのは嫌」「だめ！」「嬉しかった」.....前回の後書きにも繋がりますが、戦いや勉強においては理知的・合理的な一方で、感情表現は直截的で素朴なところが彼女の妙味です。

そんな彼女が恋を知り、耐えがたきを知り、恋敵を知り、愛を知り、素朴に情動を育んでいく物語であるところの『灼眼のシャナ』をそろそろ読みたくなってきたら愛を語りながら泥を塗っているオタクとしては感無量です。

ここまで読んでいただき本当にありがとうございます！

脚本チェックに協力いただいたいつも大変お世話になっているあのお方、創作中すぐ情緒不安になる私を宥めすかし呆れずにいてくれるフォロワーの皆さまに心より感謝申し上げます。この調子で一年に一冊は描き上げたい！



匿名感想用マッシュマロ

発行日：2024/12/29

発行者：有魚／俎上の空欄

pixiv 6289657 twitter _ariu0

Mail: ea1iu0@gmail.com

印刷所：栄光 様

※本書はフィクションです。実在の人物・団体とは一切関係ありません。

※本書の無断転載・複製・Web上へのアップロードを禁止します。

Any unauthorized reprint, repost, copy and upload is strictly prohibited.

